❷ 症例別 服薬指導のポイント

服薬指導では、患者さまとのコミュニケーションが大切です。
患者さまの状況や、困りごと・悩みごとに適した服薬指導をするには、どのような点を意識すればよいでしょうか。
ここからは、内科・皮膚科・精神科など対応機会の多い症例を８選ピックアップし、症例ごとに服薬指導のポイントをご紹介いたします。

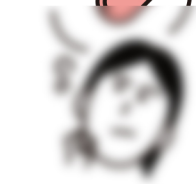
ケース１ 薬の飲み忘れが多い患者さま

服薬指導のポイント

- ☑ 薬を飲み忘れる原因を考え、個々の要因に応じた服薬支援を行う。
- ☑ 服用薬の薬理作用に基づき、飲み忘れた時の対処法について指導を行う。

薬を飲み忘れる原因は様々です。

- 食事をしなかった場合に飲み忘れてしまう
- 食間や食直前の薬など、服用するタイミングの複雑さから飲み忘れてしまう
- 自己判断により服用を中止してしまう（効果を感じない、副作用が怖いなど）



なぜ飲み忘れが多いのか、患者さまのお話などを伺いながら、「飲み忘れてしまう原因」を考えた、より個々に応じた服薬支援を行う必要があります。例えば、内服の回数が増えたことが原因で服薬アドヒアランスが下がっている場合、処方医に対して１日２回決められた時間に服用する薬への変更を提案するなど、患者さまのライフスタイルに合わせて服用回数を工夫した処方の提案を行うこともあります。高齢者の場合は、認知機能の低下により飲み忘れを起こしたり誤った服用による過量服用を起こしたりする危険性があるため、ご家族や介護ヘルパーとの情報共有を行い、必要に応じて薬の一包化や薬カレンダーでの服薬管理の提案も行いましょう。

ケース２ 血糖コントロール不良の患者さま

服薬指導のポイント

- ☑ 服薬状況の確認を行い、インスリン注射を使用する患者さまには操作方法を確認する。
- ☑ 食事療法や運動療法など、生活習慣に関するフォローアップを定期的に行う。

まずは、血糖コントロール不良の原因を考えてみましょう。薬の問題なのか、指示通りに服薬できていないのかなど、血糖値がコントロールできていない理由はさまざまです。
本当は正しく薬を服用していないのに、「毎日お薬を飲めていますか？」と質問すると「はい」と答えてしまう患者さまもいます。そのため、例えば食後分の薬が処方されていた場合、「食事の前にお薬を飲み忘れたりしませんか」と具体的に質問しましょう。
また、糖尿病の薬を飲み忘れた場合は薬によって対応が異なるため、飲み忘れ時の対応をお伝えしておく必要があります。
インスリン注射を誤って操作していることが血糖コントロール不良の原因となっている場合もあります。注射液が正しく作動するかの確認、および注射針や注射器内の空気を抜くために行う空打ちはできているか、注入ボタンを押した後も何秒かおいてから針を抜いているかなど、具体的に使用方法を確認することも必要です。糖尿病の治療には薬物療法だけでなく食事や運動習慣などの改善が必要なため、食事や運動に関しても具体的な指導に相談できる環境をつくり、服薬指導を通して適切に自己管理できるよう支援しましょう。